



2020・6・1

第 375 号

101-0065 東京都千代田区

西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

安倍首相は政治私物化、改憲言動やめよ

WEB 学習会で安倍政治批判

【大阪府／九条の会おおさか】 九条の会おおさかは5月16日、「憲法を守りいかすWEB学習交流会」と題して、ZOOMを活用したオンライン講演会を開き、府内の地域・職場九条の会のほか、近畿圏内の九条の会などから70人が参加しました。

前半は九条の会おおさか呼びかけ人でイラクの子どもを救う会代表・ジャーナリスト・西谷文和さんが中東の状況を報告。内戦が続くアフガニスタンの難民キャンプには病院もなく食糧も不足しており、コロナウイルスの感染が爆発的に広がる危険性があると指摘、「戦争をしている場合ではない。日本の役割はアメリカとタリバンの和平調停をすすめることだ」と語りました。

「世界から安倍政権はどう見られているか」との質問に、アメリカとの関係でも自衛隊の派遣など日本の信頼が失われる状況が生まれつつある中で、中東の人はそれでも「日本はまだまし」と評価していること、戦争放棄を定めた憲法のことを「中東の人は良く知っている」と説明しました。

後半はZOOMでのチャットや手挙げボタ

審査会審議めぐり攻めぎ合い続く

今国会初の衆院憲法審査会が5月28日開かれ、与党筆頭理事の新藤義孝議員は、与党・維新提出の国民投票法改定案について、「早急に質疑、採決を行い、結論を得るのは当然のこと」と主張しました。改憲論議の入り口にするねらいは明白です。

立憲民主党、国民民主党はこれに対し、採決の前提として、テレビ・ラジオCM規制に関する議論をすることを主張。山花郁夫議員は、「資金量の多寡により国民投票の結果に影響が出る」と述べました。

これに対し、共産党の赤嶺政賢議員は、憲法審は改憲原案を發議し審査する場とされており、改憲を国民が求めているのに審査会を動かすべきでないと主張。逆に自民党の石破茂議員は、「国民世論は待っていれば醸成されると思っていない。こちらから積極的に議論を」と述べました。

与党は6月4日に継続して次回の審査会を開くことを求めています。

ン機能を使って質問が寄せられ、交流が行われました。参加者からの発言では、京都の大学に通う大学2年生から、オンライン

授業の質の問題、受けられる環境がない学生の問題、食費もなく1日に2度のお粥で凌いでいる友人の様子が語られたほか、八尾市で4人の子を持つ30代のお母さんから、小学校休校のため仕事を休んで子どもに付き添い、子どもたちは運動会も早々に取りやめになり、「これで教育を受けさせてあげているか」と声を詰まらせながら心境を語る場面もありました。そのほか、今春国連で開かれる予定だったNPT（核不拡散条約）再検討会議に参加を予定していた青年からオンラインを活用した平和行進、平和運動の取り組みが呼びかけられました。

参加者からは「交通費などを払うのも家計的に厳しくなってきたが、環境さえあれば無料で自宅から参加できるのでうれしい。今後も続けてほしい」、「匿名・顔を隠して参加させてもらったが、様々な立場からの話が聞けてよかった」（学生）など多数の感想が寄せられました。

好評の声をを受けて、引き続きオンラインでの学習交流会の開催を検討していきます。

検察庁法の改悪強行に待った！

世論のこの力で改憲も阻止できる

【富山県高岡市／高岡地区9条の会】

19日、高岡地区9条の会が、「安倍9条改憲に終止符！」とスタンディングアピールを行いました。

強い風のなか8人が参加。「アベ改憲許すな、9条守ろう」と書いた横断幕やのぼり旗、「コロナ危機、十分な補償を」などのプラスターを掲げ通行する車に手を振ってアピール、運転手等の注目を集めました。

参加者の1人は「検察庁法改定案を追い込んだように改憲を許さぬように頑張りたい」と語りました。

火事場泥棒的行為を見逃せない

【岐阜県／九条の会・市民有志】 岐阜市の名鉄岐阜駅前では18日夕、九条の会など市民有志による「検察庁法改定反対」の緊急スタンディングが行われました。

約50人が参加。「検察庁法改定反対『三権分立』壊すな！」などのボードを手に、マイクを持った女性は「世論の力で国会の強行は撤回させたが、法律を通す時期を延期しただけ。この悪法を撤回するまでたたかおう」と語り、男性は「コロナ騒動の真ただ中、まさに火事場泥棒だ。三権分立を著しく壊す法案は廃案しかない」と訴えました。

行動参加の女性は「コロナ禍で自粛していたが黙っておられない気持ちで駆けつけた。感染防止対策で間隔をあげながらの行動だけどみんなが戻ってきて元気がでた」と語りました。

仕事帰りの若者らが信号待ちに、じっと聞き入る姿があちこちで見られました。19日夜も行動しました。

検察庁法改定強行停止に決意新た

【大阪府大東市／野崎駅周辺9条の会】

野崎駅周辺9条の会は5月19日、コロナ感染拡大を考慮して自粛していたスタンディング宣伝行動を再開しました。

検察庁法改定の強行をストップさせたことから、元気な再開行動となり、12人が参加しました。この日は、新しく考案した「裏

表に表示でき風にも強い」手持ち横断幕を掲げ、独自ビラを用意し、通勤客に「三権分立守ろう」と呼びかけました。

ハンドマイクで3人が、検察庁法の改定を許さず、憲法、三権分立と民主主義を守り、モリ・カケ・サクラ疑惑を究明しようと訴えました。

腹に据えかね緊急行動提起した

【鳥取県／鳥取市9条の会】 JR鳥取駅北口前で19日、検察庁法改定案に抗議し、定年延長の撤回などを求めるスタンディング宣伝行動が行われました。鳥取市9条の会のメンバーを中心に17人が集まりました。

抗議行動を呼びかけた河原清夫さん(86)は「検察庁法改正案は廃案に」「安倍政権の権力の私物化はゆるさない」と書いたプラカードを掲げました。「安倍政権はこれまで、森友・加計疑惑、桜疑惑などを握りつぶしてきました。今回の検察庁法でいよいよ腹に据えかねたので一人でもやろうと思いました。どうせやるなら多い方がいいだろうと9条の会の役員に連絡しました。独裁は許せません」と話しました。

田中福美さん(66)は「政権の都合で検察幹部の定年を延長することが可能となり、検察人事に介入して捜査の手を縛ることができます。検察は首相も逮捕できる権限を持った準司法的役割を担い、独立性や政治的中立性が必要です。そこが損なわれると正義は実現しません」と訴えました。

野党各党、県弁護士会とともに

【新潟県／全国市民アクション@新潟】
「安倍9条改憲NO！全国市民アクション

@新潟」は19日昼、新潟市の古町商店街で街頭宣伝に取り組み、各界6人が「改憲許すな、検察庁法改正案は撤回を」と訴えました。立ち止まり、拍手を送る人の姿も見られました。

県弁護士会の水内基成会長がメッセージを寄せ、検察庁法改正案が今国会での成立断念になったことは「私たちの声で政治を動かせること、民主主義を目に見える成果で示した」と評価すると同時に、秋の国会で再審議を狙う動きがあると指摘して、改正案の撤回まで共にたたかう決意を述べました。

参加者はそれぞれ「与党支持者でも改憲を急ぐべきでないが過半数。改憲よりも医療体制強化、事業者支援を」（県平和運動センター）、「コロナ禍を生き抜くために9条はじめ生存権や教育の権利など憲法を生かした政治にしよう」（社民党）などと訴えました。

県9条の会の工藤和雄弁護士は、基本的人権を保障する政府の義務を果たさない安倍政権を批判し、コロナ禍で苦境に立つ家計、中小零細企業、文化を守るため、安倍政治を終わらせようと訴えました。

正しいことが貫かれる社会に

【金沢市／小立野・犀川ロード9条の会】
小立野(こだつの)・犀川(さいかわ)ロード9条の会は19日、市内の2カ所で朝7時半から憲法9条を守り安倍暴走政治に抗議のスタンディング運動を行いました。

兼六園近くの交差点では、「憲法9条・世界の宝」ののぼりとともに川本浩平さん(79)が「検察庁法案今国会断念。正しい

ことが正しく通せる社会に」と書いたパネルを持ち込みアピールしました。川本さんは「内閣の意向で特定の検察幹部の定年を延長できるというあまりにもでたらめな法案。今国会断念に追い込んだことを早く市民に知らせ、撤回に持ち込みたい」と述べました。

笠舞3丁目交叉点では、「子どもたちに平和な未来を 憲法9条・世界の宝」と書いた横断幕やのぼりを立てアピール。通行人や車の中から手を振って応える姿がありました。

「会」は2006年に結成。翌年からスタンディング運動を開始し、毎月19日に「出勤時サイレント宣伝」と銘打って約1時間のスタンディングを続けています。

岡田保子事務局長は「憲法9条は世界の宝です。安倍改憲発議をさせない署名にも取り組んでいます。コロナ禍の中でもサイレントアピールはできます。続けることが大事です」と述べました。

コロナ便乗の緊急事態条項阻止

【青森市／9条を守る茶屋町】 青森市の9条を守る茶屋町は市内でこのほど、新型コロナウイルス対策を求め、安倍政権による便乗改憲を批判する街頭宣伝をしました。

強風が吹く中、9人が参加し、「平和憲法を守ろう」などと書かれた手製ののぼりを掲げました。ハンドマイクで「新型コロナウイルスで国民の生活は大変です」と、第2次補正予算を組んで迅速に全国の事業所への補償を行うよう訴えました。

また、「安倍首相はコロナ問題に便乗して、緊急事態条項を入れるため改憲すべきと、9条への自衛隊明記にむけて策動しています。発議を阻止する行動をしましょう。今やるべきは改憲や軍備拡大ではなく、コロナ問題から国民を救うことです」と呼びかけました。

立憲主義の危機に抗し 71回

【和歌山県／憲法9条を守る和歌山弁護士会】 6年前から毎月続く「憲法の破壊を許さないランチ TIME デモ」が5月20日、和歌山市であった。71回目のこのデモに50人が集い、「憲法9条は世界の宝」と書かれた横断幕や「武器よりコロナ対策」と記したブラカードを持って歩いた。

主催は「憲法9条を守る和歌山弁護士の会」。共同代表の藤井幹雄さんが出発前のあいさつで、沖縄・辺野古で新基地建設を進めたり、検察庁法改正案を出してきたりといった安倍政権について「コロナの災いに隠れて悪巧みを進めている」と批判。参加した和歌山市の田中長治さんも「『コロナ』に便乗して国民を政権になびかせる動きが強まっている」と語った。

安倍政権は2014年にそれまでの内閣が否定してきた集団的自衛権の行使容認を閣議決定した。この動きに立憲主義の危機を感じとった弁護士や市民が月1回のデモを始め、回を重ねてきた。次は沖縄・慰霊の日にあわせて6月23日にある。（「朝日」21日 和歌山版）